

地球温暖化防止やSDGsの目標達成を目指し、
環境にやさしい住まいや住まい方が求められています。
環境にやさしい住宅・まちづくりの取組事例や住まい方のアイデアの応募がありました。

第11回

埼玉県 環境住宅賞 作品集



埼玉県マスコット
「コバトン&あいたまっち」

主催：埼玉県住まいづくり協議会 後援：彩の国 埼玉県



今年は新築案件が少なかったが、リフォームもまちづくり部門も提案があり、またアイデア部門も学生部門も頑張って提案をしてくれたのはうれしかった。

埼玉県知事賞を受賞した越屋根の家のように、伝統的な設計手法で快適な家を作ったものもあれば、昨今のシミュレーションなどの先端技術を利用して、より良い環境を創りあげようという方法論もあり、今後様々な方法によってより快適で、環境に良い住宅がつくられるようになることが予想された。

しかし、毎回同じように問題と思ったのが、階段の危険性である。バリアフリーの性能も考えると、踏面を広く、蹴上げを少しでも小さくすることが負担なく階段利用を図ることだが、さらに言えば、踊り場に斜め段を作ることが常態化しているようだ。直線で歩く階段が基本とし、斜め段をつくることは避けてほしい。特に足を踏み外せば40cmも60cmも落ちてしまうことは危険な設計といわなくてはならない。

また、コストを抑えるためにボツ窓といわれるように小さな窓にすることも本来の健康的な太陽熱と太陽光利用から遠くなる手法で望ましくない。機械仕掛けの家を避け、自然の力でまた自然と一体化する家を目指しながら、省エネ・省CO₂の家づくりを目指してほしい。まちづくりについても、宅地が狭小化し、逆に道路率が大きすぎて、反転現象が生まれている。道路にも緑化し、車優先でなく人の空間を主体と考える土地利用を望みたい。

(中村 勉 委員長)



第11回 埼玉県環境住宅賞の流れ

審査委員会 令和6年5月1日

募集 令和6年6月20日～9月30日

応募作品 15作品

▶ 住宅提案部門	新築部門	6作品
	リフォーム部門	1作品
	まちづくり部門	1作品
▶ 住まいのアイデア部門	未来アイデア部門	3作品
	身近なアイデア部門	0作品
▶ 学生部門		4作品

審査委員会 令和6年10月21日 (作品審査)

表彰式 令和6年12月25日

目 次



審査委員長総評	1p
目次	1p
埼玉県知事賞	2p
優秀賞	3p
審査委員長特別賞	4p
協議会会長特別賞	5p
入選	6～10p
奨励賞	11～12p
応募作品	13p

住宅提案部門（新築部門）

[illegible]

所 在 地	川越市
構造・階数	木造2階
敷地面積	1664.74㎡
延床面積	222.20㎡
建築面積	202.14㎡
工 事 費	約9,180万円（税別）
居住者構成	15歳以上65歳未満3人、65歳以上1人 合計4人
応 募 者	株式会社リオタデザイン 代表取締役 関本 竜太
設 計 者	株式会社リオタデザイン 関本竜太
施 工 者	堀尾建設株式会社

講評

本作は農家の母屋の建替えで、広い敷地に周辺に豊富な植栽と恵まれた環境ではあるが、建築的な秀逸さを評価して埼玉県知事賞とした武蔵野の農家の佇まいを残すことを意図して、低いプロポーションで計画し、越屋根や深い軒、縁側・土間などの伝統的な手法を取りながらも現代の生活に合致させ、かつ断熱性能や一次エネルギー消費量で高性能を達成している。南側の大開口窓により、風が良く通るであろうと想像され、また太陽光も北側の内上間に届かせる計画で、広間が明るく魅力的な空間となっている。木材をふんだんに使った内外装も魅力的であり、外壁や木塀には地場の杉材を使用したとのこと。総合的に環境配慮を考えている秀作である。

(講評：松岡 大介 委員)

住宅提案部門（新築部門）

所在地	深谷市
構造・階数	木造2階
敷地面積	260.36㎡
延床面積	145.74㎡
建築面積	89.43㎡
工事費	約3,000万円
居住者構成	15歳未満3人、15歳以上65歳未満2人 合計5人
応募者	株式会社小林建設
設計者	株式会社小林建設一級建築設計事務所
施工者	株式会社小林建設

日本人が希薄になりつつある「つながり」に着目し、挑戦した家創りに称賛を送ります。(厚生労働白書意識調査によると、全体的につき合うは20%、形式的につき合うは35%が現状のようです。)

この作品は、土間から直接リビングへ繋がる空間構成とし、デザイン性に工夫しつつも、どこか懐かしい昭和の風情を残し、家族の笑い声が響き、気軽に知人・友人が訪れることできるお家と想像できます。

また、一日の大切な時間をリビングに腰掛け、光の変化を感じながら、吹き抜けから子供たちの声も聞こえてくるステキなお家として出来上がりました。これからも家族や地域の方々が、楽しいと思えるような家創りに邁進してください。

(講評：廣瀬 正美 委員)





審査委員長特別賞

学生部門

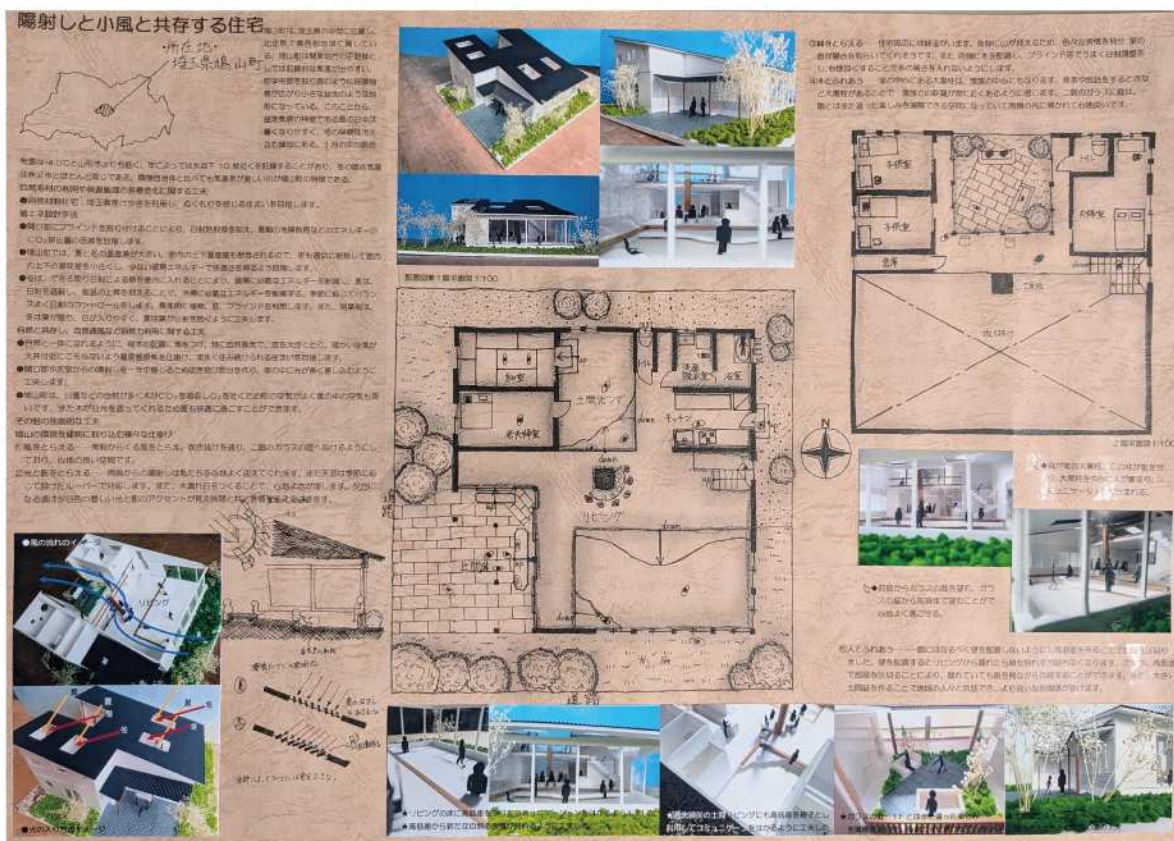
陽射しと小風と 共存する住宅

所在地	比企郡鳩山町
構造・階数	木造2階
敷地面積	400㎡
延床面積	197㎡
建築面積	209㎡
居住者構成	15歳未満2人、15歳以上65歳未満4人 合計6人
応募者	野原 瑠瑠 (埼玉県立熊谷工業高等学校)

講評

とにかく、高校生が自分の感性をフルに生かして設計したことが感じ取れてうれしかった。一般の常識を顧みず、上間庭から直接リビングへ入り、二つの居間にもあえて段差をつけ、自由なコミュニケーションができたり、もしかしてここは上間座かもしれないと上のおい、上の暖かさなどをひそかに期待したりもした。空気の流れ、自然の光が満ちあふれている。自然の気持ちよさをどのように室内に持ち込めるか、一生懸命考えてきた経緯が見て取れる。玄関から居間を通して階段や2階の外庭につながる空間の流れが心地よい。これを見つけた時、野原さんはやったと思っただろう。これが設計の楽しみなのだ。それぞれの部屋や丁度の大きさなど、勉強しなくてはならないことは多いが、きっとこの空間の魅力を信じて、今後さらに良い空間を設計してほしいと思った。

(講評: 中村 勉 委員長)





順応する家
-Adaptation House-

所 在 地	鴻巣市
構造・階数	鉄筋コンクリート（一部木）造 2階
敷地面積	189.31㎡
延床面積	83.35㎡
建築面積	84.75㎡
居住者構成	15歳以上65歳未満2人 合計2人
応募者	桐淵 玲央（ものづくり大学大学院）

「順応する家」は環境の力を積極的に活用することにより、住まう人とともに敷地の自然条件に順応するという着眼点が非常に興味深い。

風や日射、素材についてよく検討されており、特に西日の影響を受ける壁面を蓄熱壁として夏の遮熱対策と冬の暖房効果に活用するように考えられている。地場の木材（廃材を含む）の鎧戸張り仕上げや左官壁の活用は、住む人への心への配慮もされて、設計者のコンセプトが非常にわかりやすくプレゼンテーションに反映されており、賞賛に値する作品です。

(講評:宇佐見 佳之 会長)

